

「遥かな町へ」の舞台裏語る

大阪で「鳥取学出前講座」

鳥取県ゆかりの講師を招き、三谷友理主幹が講師を務める「鳥取学出前講座」が、め、映画「遥かな町へ」(谷口大祐監督)の撮影の舞台裏などについて、倉吉市観光交流本監督の藤井拓也次長兼課長と話を語った。



撮影の裏側などを語る藤井次長(左)と三谷主幹

藤井次長は、砂をまいて1963(昭和38)年の道路が再現され、看板などの町並みや当時のファッションに身を包んでいる人々を見たら「いつも見ている風景がまったく違うものに見えた。タイムスリップしたように感じた」とロケに立ち会った感想を述べた。

その上で「映画公開後、ロケーションツーリズムなどに力を入れたら、町を派手に変えるのではなく『思い出せる町』であり続けるための取り組みが必要。映画がそのきっかけになれば」と今後のまちづくりを展望した。

三谷主幹は、写真に収めたスタッフの仕事風景などで映画撮影の裏側を紹介。撮影期間中、倉吉市内に宿泊したスタッフと地域住民との交流が生まれ、スタッフから「とても居心地のいいまち」と言ってもらえるなど、地域一体で盛り上がったと振り返った。

映画『遥かな町へ』日本海新聞(2026.2.17_17面掲載)